



1月号 発行所 全日本仏教会 東京都中央区築地3-15-1（本願寺内）振替東京37600
発行人 伊藤勝淳 編集人 柳 了堅 電話（542） 2969-8666 （541） 0313

仏教徒のねがい

1. 仏に帰依し、仏の教えに帰依し、仏の教えをおおぐ人々に帰依して正しく明るく生きぬく人間となります。
2. 仏の智慧と慈悲に照らされて、さとり道と求め、真実の自己にめざめると共に、多くの人々に仏のおしえを伝えます。
3. みずから戒めを守り、行ないを反省し、生かされている身の幸せに気づいて、あらゆる恵みに感謝し、教智と愛情をもって明るい生活を築きます。
4. みずからとらわれと偏見をすてて、真実を正しく見、創造力を養い、個性を伸ばし、よるこんで世のためにつくして、自他平等の幸せな社会を作ります。
(全日本仏教会制定)

新年のごあいさつ

全日本仏教会

会長 岸 信宏

みなさま明けましておめでとう存じます。新しい年をむかえて、昨年中の全日



ブツタガヤ大塔の元旦

仏本部のみなさまのご苦労に対して、厚く御礼を申しますとともに、全日仏加盟の各宗派、仏教諸団体のみなさまのご協力に対しても、深く御礼を申します。全日仏に課せられた国の内外の諸問題はますます多きを加え、その問題の処理に責

任の重大さを感じます。

昨年名古屋で開催せられた第十四回全日本仏教徒会議愛知大会において、決議せられた事項の実行も具体化せられることと信じます。また、タイ国で開かれた、第八回世界仏教徒会議の決議事項にも協賛して、世界仏教徒の国際親善を深めるとともに、世界の平和に貢献するところがなければならぬと存じます。私の関心事といたしましては、昨年二月に印度に参り、印度日本寺建設の第一期事業として、仏陀伽耶に建設せられた、宝篋印塔の落慶法要を行ってきたのでありますから、国際的にも大きな意義をもつ、印度日本寺建設の事業の進展を望むこと切なるも



のがあります。

本年は第十五回全日本仏教徒会議が岐阜県において、十月八、九両日行われることに決定してありますので、関係者のご尽力を御願いする次第であります。

本年度御歌会の御題は「魚」と仰せ出されています。水魚の交りという言葉があります。全日本仏教徒が水魚の交りのように、緊密にして親愛なる関係を保って、仏教の興隆に努めていただきたいと存じます。

(浄土門主)

僧は公僕であれ

笠原 一夫

(東大教授・文博)



政界のすべてを、おおい
つくしたかに見える「黒い
霧」は、政治にたいして、
ぬぐい難い不信感をわれわ
れ国民に植えつけてしまっ
た。しかも為政者たちは、

自分たちがとっている行為にたいして心からの反
省も、羞恥も感じていないかに見える。かれらを
して、そのような思いあがった人間にしてしまっ
た理由はいろいろあろう。だが、その根本的な理
由の一つが、公僕精神の喪失にある、と私は考え
る。公僕精神を忘れ去った為政者が、支配者にか
わったところに、国民の幸福を無視した行動をと
って、てんとして恥ない態度が生まれるといえよ
う。そのような態度のなかから、国を殺して党を
生かし、党を殺して派閥を生かし、派閥を殺して
政治家個人が生きようとする姿勢が生まれてくる
のである。

仏教界に目をむけた時、これと大同小異の姿が
見られるような気がする。既成仏教の僧侶の方
は、自分の立場と、教団の組織というものを、ど
のように考えているのであろうか。僧侶のなか
で、檀家の人びとや、仏教の信仰に生きている人
びとにたいして、僧侶はそうした人びとの公僕で
ある、といった考えをもっている方がどれだけい
るだろうか。

僧侶が、宗教の世界における公僕精神を喪失し
た時、宗教に生きようとする多くの国民から見放
されるのは、むしろ当然といえる。僧侶は、それ
ぞれのぞくする教団の全組織をあげて、日本国民
の心の世界でのお世話役を、積極的に果していた
できたものである。

宗教の世界における公僕精神を忘れ去ったとこ
ろに、現代の僧侶にたいする国民の不信感が助長
されているともいえる。そこに為政者と同じよう
に、仏教を殺して教団を生かし、教団を殺して寺
院を生かし、寺院を売りとばして、僧侶が生きよ
うとしているかの姿勢が生まれるともいえる。
私は望みたい。全僧侶が宗教界の公僕たる自覚
と行動をとることを。

世界観と仏教

山田 久就

(外務省顧問)



二十世紀の後半は、世界
技術革新の時代と云われて
おります。世界の交通通
信、生産力の革命によっ
て、いまや世界の歴史はひ
とつの大きな転換期に立つ

に至った。物質面の革命にかかわらず、物質を支
える人間性乃至は人間精神にその目を転ずると、
たいへん大きな遅れがめだっております。物
心両面の均衡がいつ達成されるか、これが二十世
紀の後半に人類に課せられた大きな課題でありま

す。

全体主義の国においては、それがどのようなイ
デオロギーに立脚しておろうとも、全体のために
個人としての人間性を否定する点で共通点があり
ます。ソ連でも宗教は阿片であるとの立場から、
実際面でこれを否定する政策を持続してきた。し
かしヒトラーの侵入に当り、全国民の協力を仰が
ねば国家の独立を維持し難い厳しい現実、直面
し、スターリンと宗教との妥協が行われた。にも
拘らず、スターリン時代には宗教家の代表が、国
の祭日たとえば、革命記念日などにクレムリンの
宮殿で開かれる祝宴に招かれるというようなこと
はまったくなかったが、フルシチョフ時代は、単
に招待されるばかりでなく、漸次、手厚い取扱い
振りに接するようになってきた。しよせん人間か
ら宗教心を奪い難いものであることが、共産主義
の国でも事実として実証されるに至った。仏や神
への敬虔な信仰心、これこそ人間精神にとつては
もっとも本質的なものである。

今や二十世紀のこの転換期に臨み、とり残され
ている精神的な面での新たなルネサンス、これこ
そ現在人類に課せられた厳粛にして聖なる一大課
題であると思う。そしてこの課題に応える重責の
一端が、まさしく仏教界に課せられていると思
う。

光は東方よりと云われているが、世界の転換期
という現在のこの時点において仏教界が新たに
して世界的な自覚に立ち、人類救済の精神的使徒と
して、ぜひとも精神界で新生面を拓いて欲しいと
思う。これが今日仏教界に対するわれわれの切
なる念願なのである。

ことしの仏教界に望むこと

仏教の課題

仁戸田六三郎

(早大教授)



仏教の真理は、時代の変化に左右されるものでないことは、今さら申すまでもない原子科学が現われる前も後もなんの関係はない。だから現代だからといっ

て、特に声を大きくする必要はない。ところが、この世に生をうけて生活する衆生というものは初めから終りまで、時間的、空間的に制約されている。特に、私のような下品下生は、毎日一喜一憂心の静まることとてない。毎日の身辺を思うにつけ、心身の休まることとてないみただ。

交通戦争の激烈さは、今日は人の身、明日は我が身のたとえを、そのものズバリで教えているのではない。その他生活が近代化され合理化された結果、万事スピードアップされるばかりだ。新婚夫婦が、ばら色の人生の門出に乗った航空機が、事故を起してあの世行きになった。

昔から「無常迅速生死事大」といわれているが、今日ほど無常迅速の時代は、今までなかったのではない。この事実を裏返すならば、今日ほど仏教の教えの必要な時代は、今までなかったのである。仏教としては、一番腕が鳴る時である筈である。

ああそれなのに、仏教の一部には、老化現象が

起りつつあるようで、昔の夢の中で消極的な日を送る有様だともいわれている。初めに述べたように、仏法の真理は、時代を超越したものである。ということは、現代にももちろん通用するわけである。ただ問題は、そういう普遍的な仏法の真理を、現代の下品下生と、どのようにしてつなぐかということである。

高踏的な独善主義で、下品下生を見下しているようでは、お釈迦さまの尊い遺産を、座して食いつぶしているみたいである。重ねて申すならば、近代化の路線は、理論的には人命の尊重を強調するが、現実的には、人命のはかなさを、如実に知らされるばかりだ。そういうことを、考える暇さえなくなっているのが、現代生活の様相である。新年を迎えるに際し、現代の時点における課題を考えてみた。

野性の血を

寺内 大吉

(作家・大吉寺住職)



日曜日、教会の前を通りかかるたびにうらやましく思ったものだ。若い男女が集まっているのを見かける。キリストさまはそれほど青年子女に魅力があるだろうか。

これにひき比べて寺へ集る人たちはどうだ。みんな爺さん婆さんじゃないか。仏教は古くさくて、キリスト教は若いのか。

だがこれは、やはり皮相な見方にすぎなかった。内輪者のひがみ眼というやつかも知れない。先般ある牧師さんが訪ねてきた。金子繁治という、ボクサーが信仰していた教会の牧師さんだ。世間話のあと彼は言った。

「お寺さんというのはどうしてああも深く檀信徒の家庭のなかへはいりこんでいるんですかね。私らキリスト教が教線を拡張できないのも、信徒のこの組織力が大きな壁になっているんです。」坊さんが一般家庭へ喰いこんでいる実体を例をひいて説明した。敵さんもちやんと此方を研究しているのである。

縁談、商売の手引き。借地借家のあっせん……：日常生活の隅々にまで、坊さんがはいりこんでいるというのだ。百の説法屁一つで、教会へ集る若い男女は遊びにくるだけで、一向に神の糧にはなってくれないんだそうである。

牧師さんのこの言葉で、ぼくらは大いに考えをあらためねばならなくなる。創価学会の目ざましい信者獲得の基本をなしたものは何であつたか。信者組織を通じてエネルギーに行った日常生活の便宜。悩める者のところへは押しかけてでも出かけて慰さめ勇気づけた布教――。

既成宗派の坊主たるぼくらは、もう一度従来の布教方法を見つめなおすべきではなからうか。手の汚れない、カッコのいいことをしたら衰微してゆくばかりなのである。

もっと泥臭くなる。もっとぶこつくならなくてはいけない。血脈は、二代三代と相続すればひ弱くなってゆくのが当然だ。ここらあたりで、野性の血を宗門へ流しこむ方法を真剣に考えようではないか。

正法顕揚のとき

全日本仏教会

理事長 豊原 大潤

謹んで新年のおよるこびを申し上げます。

内外ともに多事であった一年を送り、ことに昭和四十二年の新春を迎えるにあたりまして、今年こそは仏陀の眞精神が、わが国の隅々まで息ぶきわたる年であることを心から願うものであります。

しかしながら、地上に争いは断えず、しかも、ひとしく三宝を敬う仏教国において、いつ終るとも知らぬ泥ぬまの戦いが続けられております。

ことは、仏教徒の一人として深く悲しむものであります。仏陀の教えがあまねく光被して、戦火の巷に一日も早く平和がもたらされるようにと念ぜずにはおれませぬ。



ひるがえって、わが国の実状を見ますと、国民の物質的生活においては、すでに先進国として世界の人びとの認めるところであります。今日ほど荒廃のはなはだしいときはないように思われます。そのうえ、国民の情操の低下と宗教への無関心さは、いかがわしい邪教の横行となり、仏日のひかりは暗雲に覆われたまうかの憂いを覚えるものは、私一人ではございますまい。

いまや、全日本仏教会は、深く自らの任務にめざめ、自らを戒めるとともに、これらの事象を機縁として、正法顕揚と社会教化のため、いよいよ心を新たに身挺身すべきときであると、強く感じている次第であります。

(浄土真宗本願寺派総長)

新しい年・わたくしの心構え

仏教の現代化

全日本仏教青年会会長

大谷 光 紹

今日、広く世界の情勢について考えてみますに、日本をも含めて人類の等しく願うところ、究極において、平和、共存、更には共栄にあると思えます。しかし一たん、その底流に眼を注ぎますとき、そこには絶え間のない闘争が渦巻き、世界戦争の危機をさえ、常にはらんでいることを感ぜざるを得ません。この世界戦争の危機は、とりもなおさず、核兵器による人類破滅の脅威であります。この核兵器に、はつきり象徴されるように、人間が人間自身の生み出したものによって、却って自己を喪失しつつあるという、人間疎外の問題こそ、現在の人類全体の、そして今後の世界人類にとって、最大にして、最も重要な課題と言わねばならないと思料するのであります。



あるのであります。

しかしながら、現実の世界においては、人間の思想自体が既に混乱し、ベトナムをはじめ各国における対立抗争の状況は真に眼を掩わしむるものがあります。ここにおいて、仏教といえども、単なる宗派我としての仏教の主張に終るときは、それはこの抗争を助長、激化するものではあっても、宗教思想の調和提協を齎らすものではないと考えるのであります。

従って私共は、仏教本来の目的にかえり、宗派我を含めて、あらゆる人間の遍見を越え、現実の生活に即し、現実の生活に生きる仏教を、現代に探求宣布することが最も大切である、と考えます。ここに新しい年の初めに当り、私は仏教の教える、人間の最も本源的な生命力と知恵に基づきつつ、自由に呼吸する人間を発見し、その交流に努めると共に、進んで、かかる精神的交流にその場を提供すべく一層の努力と精進をつくしたいと考えるのであります。

(東本願寺法嗣)

彙 報

☆全仏常務理事会

全日本仏教会常務理事会は十二月十九日築地本願寺で開催。明年度の事業計画および昭和四十二年予算案その他重要議案について協議した。一月下旬に全国宗務総長会議、都道府県仏教会代表者会議などをひらいて決議を得たうえ、正規の手続を経て明年度予算が本決りになる。

☆神奈川県仏教徒会議

神奈川県仏教会主催の第七回神奈川県仏教徒会議は十二月三日十二時半から鎌倉市本覚寺で開催。まず高橋隆夫県仏会長の導師により三篇依文斉唱、次いで峯副会長の開会の辞、高橋会長のあいさつ、仏政同の狩野師の祝辞について仏教徒会議に移り、鈴木敏範常務理事の座長で議事が進められた。本年度の議題は、

- 一、神奈川県仏教財団創設について
- 二、地域仏教会の振興について

の二議題で、財団創設について能登事務局長は「これは神奈川県仏三十年来の念願である。

わかりやすい仏教文書の出版と、仏教センターの建設を明治百年の記念事業として実施したい。われわれ仏教徒は打って一丸となって推進したい。財団の

造成目標金額は一億円以上の莫大な募金だから、財界人の援助の前に、県内寺院の積極的の協力を願いたい」との発言に全員賛成。さらに高橋会長から「全生命を打ちこんでわれわれ役員はやる覚悟であるので、みなさま方の一層のご協力をお願いします」と発言し拍手のうちに可決確定。

議案第二号の地域仏教会の振興については時間の関係上、本部説明だけで、県仏の事業である仏教慈善徳会（青少年の健全育成運動）の現況報告と、相互援助組合（加入寺院八三九方寺）の新規、追加加入の説明ののち会議は終了。そのあと同二時からは大石秀典氏の「宗教界の極秘情報」の講演があった。

☆仏教徒憲章制定委員会

全仏主催仏教徒憲章制定委員会は十二月五日築地本願寺貴賓室で開催。委員全員出席、西義雄氏を議長として、議長提出の憲章案文をはかり、全員意義なく了承した。ただ仏教用語に難

解の点があるという意見も出たので、年度内に再検討しこれを発表の段取りとして会議をおわった。

☆仏青の街頭募金

全日本仏教青年会（会長大谷光紹師）では、成道会の聖日を機として十二月七日午前十一時から午後三時まで、大谷会長をはじめ各単位仏青の幹部数十名が寒風のなかを、銀座、教寄屋橋などで街頭募金を行い、集った二万三千円を毎日新聞社を通じて社会施設に寄附した。

☆山梨県仏徒記念大会

本秋、全仏に加盟した山梨県仏教会では、きたる二月二十六日（日）午後一時から全仏加盟記念仏教徒大会を甲府市の県民会館内にある映画講堂で盛大に催されることになっている。記念講演として東大教授笠原一男先生が出講の予定である。

☆大仏灰皿の輸禁

第八回WFB大会で、仏像を著るしくぼくとするものとして、鎌倉大仏を浮彫りにした灰皿が、マレーシア代表によってとりあげられ、このようないかがわしい品物は輸出禁止の措置をとるよう、日本側へ申し入れられた。そこで全仏では早速関係方面と接渉してさっそく善処することになった。

マレーシア代表によれば、かねてから多量のこのような灰皿が日本から東南アジア各地へ輸出されており、現地仏教徒の憤激をかかっているという。

明けましておめでとうございます

財団法人 全日本仏教会

会 長 岸 信宏
副 会 長 即真 周湛
事務総長 黒田 白純
事務局長 稲田 稔界
組織局長 伊藤 勝淳
文化局長 日野 照護
国際局長 熊谷 雄幸

理 事 長 豊原 大潤
常務理事 中村貞元 訓覇信雄 小
林大巖 片山日幹 華山
恵光 杉谷義周 草繁全
弘 上野頼栄 小野塚潤
澄 来馬道断 山本 杉
阿部竜伝 松本徳明 村
瀬良彦 村上道隆 下川
弘義 鶴飼隆玄 高橋隆
夫 松村寿顕 竹内良恵

理 事 山田義道 高辻恵雄 末
広愛邦 杉崎法山 岡野
正道 塚原徳心 清水谷
孝尚 守中隆璋 山中浩
文 森諦円 森本三鑑
後藤憲敏 草津宣浩 間
野敬重 奥博良 二十二
鉄鎧 倉持秀峰 佐藤覚
雄 安藤寿雄 中山理々

事務総局 関西事務局

事務総長 神田 寛雄
総務部長 大内 察爾
組織部長 宮部 幸磨
国際部長 梶原 重道
文化部長 奥 博良
主 事 郵上 文円
八橋 秀雄
小原 静忍
今井 秀鳳

監 事 春山定 船口暉子
書 記

三帰依文を唱和する日本代表团（左から二人目が下川团长、中央、奥副团长）



第8回世界仏教徒会議は11月6日から11日までの6日間、タイ国の古都チェンマイ市で開られた。大会にさきだち11月4日、5日の両日、バンコック市で準備総会が開られた。

準備総会（バンコック）

準備総会は、十一月四日午前九時二十五分から、バンコック市の文部省宗務局二階会議室で開催。参加国は日本をはじめオーストラリア、英国、米、国、タイ、マレーシア、中国など二十カ国代表、オブザーバーなど合計四十八人。日本から下川弘義团长と鎌田团员が出席した。

まずWFB、ブーン会長によって仏壇に灯明が捧げられ、全員起立合掌。それから会議が始った。ブーン会長、タイ政府宗教局長のあいさつのおと、ハワイ代表

表ミヤバラスナオ氏、シンガポール代表ビット・チン・フイ女史がそれぞれ議長に指名された。

に感謝し、全員異議なく承認した。

3 常任委員会、その他の委員会にメンバーの選出、WFB大会の五常任委員会、青年問題委員会、運営委員会、信用委員会出席のメンバーが文書で提示され承認された。

4 WFB規約改正に基く特別委員会の報告についての検討は一九六七年十月までに改正された規約を、各センターに送付することに決定。

5 既存の団体をWFBセンターとして認定することについてはつぎの団体をWFB地区センターとして認定することに決定した。ダライラマ宗教問題会議（印度）、タイ国仏教青年会（タイ）、シンガポール仏教僧伽協会

その他の申入れのあった団体は加盟が保留された。

6 WFB実行委員会に四代表を追加することにについてはつぎの四代表が選出された。

日本、ハワイ、セイロン、ベナン。日本はタイ国仏教協会の推薦によるものであった。

7 その他の件として中国（台湾）代表から、過去の大会で決議されている核実験禁止、宗教迫害に対する処置が講ぜられてないのは遺憾であるので善処されたいと申入れられ、第八回大会で善処することに決定。つきにWFB財団資金の確立につき本部側から、未納のセンターは必ず約束を履行された旨申入れがあった。

午後三時四十分ごろ閉会。

新年賀

全日本仏教会会長
浄土門主

岸 信宏
京都市東山区
林下町四〇〇

参議院議員

大谷 よし雄
東京都千代田区永田町
参議院宿舎

（国会の申合せにて現状失礼します）

参議院議員

公選法改正特別委員長

川野 三 暁
東京都千代田区
永田町参議院宿舎

広島県山県郡加計町
正念寺

参議院議員

中野 文 門
東京都千代田区
永田町参議院宿舎

真宗大谷派仰明寺住職

菘輪 英 章
福井県鯖江市和田町

レポ ー ト

世界仏教徒会議

日本の提出議案

- (1) 仏陀の慈悲の大精神を以て世界平和の招来を呼びかけよう。(人道奉仕奉員会で審議)
- (2) WFBに国際仏教青年連盟を設け、世界仏教青年の交流をはかろう。(仏青問題委員会で審議)

大会開らく (チェンマイ市)

第八回世界仏教徒会議は、十一月六日午後二時から、タイ国チェンマイ市ブタ

サタンホールで開催された。午後一時三十分、参加二十三ヶ国三十八WFB支部

代表、オブザーバー、ゲストらが入場。ついでタイのタノム・キチラローン首相が、文部大臣や他の閣僚と共に来賓席についた。

午後二時、タイ法王ソムデ・ブラ

・ヴァナラト大僧正が壇上の正面に着座し、三帰五戒文が全員起立して、パリー語で唱えられた。タノム首相のタイ皇帝よりのメッセーシ朗

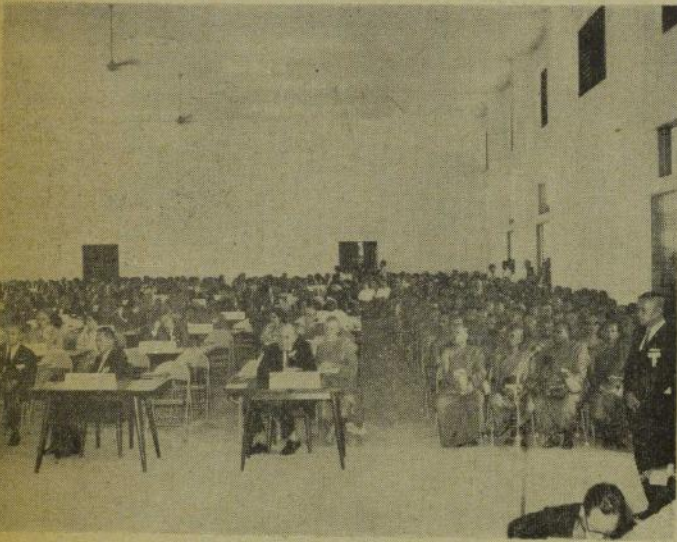
読のあと、WFBのブーン・ピスマイ・ディスクール妃会長のメッセーシ、WFB名誉会長、現駐英セイロ

ン大使G・P・マララセケラ博士らから挨拶があり、午後三時よりアルファベット順により各国代表か

ら、それぞれ元首のメッセーシが披露された。日本側から下川団長が立

って、別掲の佐藤首相よりのメッセーシを朗読した。その間、高階雅仙

名誉団長は九十一歳の高令ながら、



ブタサタンホールの総会場の各国代表

参加国と代表

オーストラリア、カナダ、セイロン、中国(台湾)、英国、フィンランド、西独、香港、印度、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、蒙古、東パキスタン、シンガポール、シツキム、タイ、南ベトナム、米、ソ連、ブラジルの二十

三ヶ国で、WFB支部の数は三十八を数えた。代表は百十五人、オブザーバーは約八十五人計二百人。不参加国の主なるものは、ビルマ、カンボジア、北ベトナム、フィリピン、中華人民共和国、ネパール、西パキスタン。

終始比丘団とともに雑壇に座を留めていた。日本WFB会長のメッセーシは、時間の都合上、議長へ提出にとどめ、大会第一日は午後五時四十五分に終了した。

午後六時三十分から、チェンマイ市長公邸で同市長主催の歓迎ガーデンパーティーに出席し、タイの伝統的衣裳「アツイテ」をまとった、娘さんの踊る、カントクダンスを見ながら和気あいあいの雰囲気の一夕をすごした。

なお午後の各国元首よりのメッセーシ朗読中に、議長のマララセケラ博士の動議により、先般逝去された、日本のほこる世界的に有名な仏教学者鈴木大拙博士を悼んで冥福を祈るうと云うことになり、全員起立して三分間黙禱をささげた。

第一日 (七日)

大会第二日目の開会冒頭、高階名誉団長による三帰依文がおごそかに唱えられた。議長にはハワイのミヤバラ・スナオ氏が指名され、WFB事務局次長ブロック・アムラナンド氏から、バンコックにおける準備総会の議事録が披露され、印度(アツサム)、マレーシアから若干の質疑があったが、異議なく承認された。

ついで過去のWFB大会の決議に基づく報告が、WFB各支部から披露され、日本側は時間の都合上、主なものの報告するにとどめた。午後は郊外の丘陵地帯にある、ロイヤルサマーパレス、ワット・ブラ・ダト寺に参拝。夜はブダサタンホールでマララ博士や、カンティパロ師（タイ）らを囲むパネルディスカッションが開かれた。

第三日（八日）

第三日目は、タム・チャウ師（南ベトナム）が導師で、三篇五戒文が唱えられ、マレーシアのテー・ティン・チュー氏が議長に指名され、昨日につづく各国のレポート朗読があった。なお特に許されて南ベトナム統一仏教会キエット会長からのメッセージがタム・チャウ師により披露された。

午後二時から、各種分科会がレイルウエーホテルの各部屋で、開られ、日本側提案の、平和に関する議案は、タイ、セイロン、中国と同趣旨の内容なので、一括審議に附され、総会で国連へ抗議電報を送ることに決定された。

一、核兵器製造、使用の禁止、二、宗教

佐藤首相のメッセージ

第八回世界仏教徒会議が、かのラナタイ王によってもたらされた絢爛豪華な文化の粹、古都チェンマイ市に、世界各国仏教徒代表が多数参加して開催されるにあたり、日本国民を代表してメッセージを申し述べる機会が与えられました。これは、私のもっとも光栄とするところであ

断崖の撤廃、が中心的内容であった。青年部会は別掲の通りであるのでここでは省略する。夜は八時から十時まで、ブダサタンホールで、ブラパカシット師、サエンチャン・ガム師（タイ）が講師となり、大乗仏教についての講演が行われた。

第四日（九日）

早朝から、タイ国独特の伝統的儀式「カチン祭」が行われた。これは信徒たちが比丘へ黄衣を贈る式でチェンマイ市は大変な賑わいであった。市内をはじ



歓迎パーティでタイの民族舞踊(第1日)

ります。

世界中のすべての人びとが、それぞれ渴望してやまない平和への道はけわしく、現在世界の各方面に紛争が見られます。ときに、大聖釈尊の慈悲と平和のみ教えが、本大会であらたに強くよびおこされるところは、まことに時宜を得たことであり、しかも重大なる意味をもつものといわねばなりません。最後に私

め、各村村から着飾った娘さんや若者が、布施の品物を手にして、市のワット・スアンドグ寺から巨象を先頭に出発。約一、〇〇〇米にわたる色とりどりの大行列は壯観であった。やがて行列はワット・ウモン寺へ到着。各国代表から黄衣が同寺比丘へ渡された。下川团长も黄衣を手にして、同寺住職に手渡し、サンガバシ氏（WFB事務総長）に紹介してもらい、同寺住職のあいさつがあり、その間一般信徒は堂宇の外、真夏の太陽をあびながら合掌して立ちつくしていた。

午後三時から、再び各部会がレイルウエーホテルで行われた。（青年部会のもよみは省略。）夜はブダサタンホールで「チベット仏教」と題する講演がジョン・プロフィールド氏（フィンランド）により行われた。

第五日（十日）

第五日目、早朝からバスで市の郊外のマエサで、巨象群による材木運搬のデモンストラクションが行われた。終って北部タイ最古の寺院、ブラ・ダツ・ハリブンチャヤ寺で、タイ古典舞踊を観覧、パゴダに水をかける式に参加した。

は、世界各国の仏教徒代表が参加して開催される本大会が、世界平和実現のための道を見出すとともに、これを契機として、釈尊の大精神が人類福祉に大いに役立つことができますことを祈念してやみません。

一九六六年十一月六日

日本国総理大臣 佐藤栄作

午後二時四十分から、ブダサタンホールで総会が開かれた。五戒文がラマ・サンドン師（チベット僧）で、ダライ・ラマ宗教問題会議代表）により唱えられ、クレオンフン氏（ベナン）が議長に指名され、各種委員会から詳細な報告があった。順序は、運営委、財政委、出版、印刷、教育、文化、芸術委、仏教宣布活動委、人道奉仕委、共同、団結委、青年問題委の七委員会であった。夜はブダサタンホールで、英国のイルムムッド・シュレーゲル女史による「禅」に関する講演があった。

最終日（十一日）

大会最終日の五戒文は、白人比丘カンティパロ師（英人）が導師となつて行われた。ついでブリンWFB会長の挨拶、タイ仏教会長サンヤタルマサクティ氏のあいさつがあり、参加者を代表してハワイのミヤバラ氏から、WFBタイ本部、チェンマイ市長、同市仏教会に感謝の辞のべられ、布地のベナントが贈られ拍手をあげた。なおチェンマイ仏教会に対し、各国より寄附金がよせられ、日本側から百バーツ（約二千円）を贈った。ついでWFB本部へ各国より贈りものが手渡されたが、日本側から、置時計一個、仏教徒バッジ三百個、仏書五十冊を贈った。午前十一時三十分、式はとどこおりなく終了し、各国代表は再会を約して散会した。

なお、十一月十二日バンコックでタム首相主催歓迎レセプションが行われ、ついで同日午後六時からロイヤルパレスで、プミポン皇帝夫妻が出席して歓迎とさよならパーティが開かれた。

日本の提案

日本の提出した議案の第一議案は、タイ、セイロン、中国と同趣旨のものであったので、人道奉仕委員会を一括審議に附され、結局、国連に対し平和を訴える抗議電報を送ることに決定した。核実験及び核兵器製造禁止及び宗教迫害を防せぐ趣旨のものである。電報は十一月十三日よWFBリーン会長名により打電された。

同委員会は、ハワイのミヤバラスナオ氏が議長で行われたが、日本から下川団長、猪俣団員が出席した。

第二号議案については、青年部会に付議され、タイのサームスリ女史が議長となり、十二人の代表が出席して審議され、WFB本部と密接な関係をもった青年問題常任委員会を設けることに決定し、日本を含む七名の委員が選出された。

(委員) タイのサームスリ女史、スラリット女史、韓国のリー・チヨンク氏、南ベトナムのゲエン・タン・タイ氏、印度のキシヨウ・チャーン・ロウ氏、ベナンのクレー・レオン・フン氏、日本の鎌田良昭氏。

常任委員は一年に二回、六ヶ月ごとに各国の仏青活動について委員会へ報告すること。また同委員会は、次期大会開幕六ヶ月前にタイか日本で開催することになった。

つぎの大会開催地

WFBの最高決議機関である実行委員

重要議案はどう決ったか

会は、十一月八日及び九日の両日午後七時半からレイルウエーホテルダイニングルームで開かれ、次期大会開催地や本部移動案などにつき協議した。

このたびの大会に次期大会開催地として、東バキスタン(タタカ)、中華民国(台湾)、南ベトナムなどから立候補があったがこれについて、WFB会長らが申出のあった各国から資料をとりよせ、また、各国を訪問して現地調査をして、その結果を実行委員会に報告して決定することになった。両日の会合に出席した実行委員はつぎのとおり。

セイロン(D・G・タヤラトナ氏)、ハワイ(ミヤバラスナオ氏)、マレーシア(クレー・レオン・フン氏)、日本(下川団長代理鎌田良昭氏)、WFB会長(ブーン妃)、同事務総長(サンガバシ氏)、同次長(ブロック氏)

WFB本部移動問題

WFB本部は一九六三年末にビルマからタイに移転したのであるが、一九六八年までその所在地はタイに置かれることになっているので、その後の一年間を準備期間としてタイに置き、一九七〇年からつぎの適当と思われる国へ移動するということに申合せた。この決定も実行委員会の任務である。

大会スナップ

○……大会初日の各国元首メッセーシの朗読はアルファベット順で行われた。日本はインドネシアについて、下川団長が読み、インドネシアのメッセーシを朗読して盛んな拍手をあげた。各国代表のメッセーシが終ると、議長長のビット・チン・フイ女史の提唱で、偉大なる鈴木大拙博士の追悼のため黙禱を捧げた。

○……大会二日目の十一月七日の三婦五戒文の導唱は、日本の名誉団長、九十二才の高階彌仙禪師で、各国比丘ととも、力強く日本語で三婦依文を唱え、それにこたえてWFBのブロック事務次長がそれをパリー語で唱え、全員の斉唱とつぎ荘厳な雰囲気をもも出した。

○……チェンマイ市をあげての歓迎ぶりは感激的なものであった。代表団を乗せた列車がチェンマイ駅に到着したとき、美しく着飾った女子学生たちがタイの古典音楽に合せて優雅な舞踏で一行を迎え、ホームに溢れんばかりの市民たちは仏旗や法輪旗を手にして盛んな歓迎風景であった。街には仏旗や、万国旗がいたるところに翻がえり、大会気分が高潮したチェンマイ市の六日間であった。

○……比丘に黄衣を贈る儀式であるカチン祭が、大会の行事におり込まれたが、ワット・スアンドンク寺からの行列は巨象を先頭に、きれいに着飾った娘や若者の列で延々二キロにおよんだ。目的地的ワットウモン寺に到着し、各国代表について、下川団長が黄衣をこの寺の住職に手渡した。

信心のあつたい仏教徒はその間身じろぎもせず、強烈な陽光のもと、寺の外に合掌してたたずんでいたのは印象的であった。……連日大会場に報道関係者がつめかけ、特にパンコックポスト紙、デーリー

ニュース紙などの大新聞が大会の記事を一面に大きく取扱っていたのは、いかにも仏教国タイらしかった。

平和ア

ピール

パンコック発によれば第八回世界仏教徒会議の大会総会で決議された平和アピールの電報は、十一月十八日大会会長ブーンWEB会長名で国連本部へ打電されたことである。電文はつぎのとおり。

「第八回世界仏教徒会議は、各国の核兵器製造、使用の禁止及び宗教断圧に對して反対することを決議し右アピールする」

一九六六年十一月十八日
世界仏教徒連盟会長
ブーン・P・ディスクール
米國ニューヨーク市
國際連合機関
事務総長ウ・タント殿

ブディストクラブの慈善パーティー

釈尊降誕日を記念して、青年仏教徒が中心となって結成された「東京ブディストクラブ」(代表井上政紀氏)では、発足らしい、いろいろの福祉事業を行っているが、旧ろう十二月十三日午後六時から、東京赤坂プリンスホテルで二回目の慈善パーティーをひらいた。

全日仏青会長大谷光紹師(東本願寺法嗣)をはじめ、同会幹部ら約三百人が集り盛大であった。渡辺弘とスターダスターズ、早川真平とオルケスタティピカトウキョンの一流バンド、東芝ヤングシスターズや、吉田英雄など出演、楽しいひとときを過した。集った浄財は、東京都内の社会福祉施設に贈られる。

国際仏教

珍客・ベトナムから 和好教一行と白人ベトナム僧

写真=あいさつをするグエンゴクトー団長と一行



事長)も、ホアハオ教徒の信心深いこと、その協調的態度に感謝しているとのことであった。和やかな空気のうちに質疑応答が交され、午後三時四十五分ごろ閉会になった。

出席代表は、グエン・ゴク・トー氏(ホアハオ教団副会長、前農相)・トラン・ヴァン・ニユ氏(同教団顧問)、グエン・ヴァン・ホー氏(同院長教理)、ホ・タイ・ガン氏(検察)、グエン・ロン氏(第一副総書記)、グエン・タン・ヒブ氏(検察)、リ・トラン氏(信徒代表)の七代表。日本側の出席者は、

所賀久雄、藤木隆、阿部竜伝、松本徳明、中山理々、藤井教雄、真溪義貫、森田大耕、大森曹玄、長田順海、松本外務事務官、壬生照順、大島忠雄、西村輝成、黒田事務総長、日野、伊藤、熊谷各局長、近藤、柳、伊東各部長古宇田、福井、鎌田主事、フィンムイ(通訳、東大留学生)らであった。一行は京都の各宗本山に参拝した。

ベトナム情勢報告

ハットハン師

アメリカ友和会の会員のベトナム僧テック・ハットハン師は、現在のベトナム情勢と仏教徒の立場を各国の宗教家に理解してもらうために、世界各国訪問の途次、さる十一月十八日に来日した。

全仏では、同じく友和会員である佐伯真光師から申し入れがあったので、在京

常務理事、各正副専門委員長、また国際専門委員の参集を求め、十一月二十一日午後一時から、築地本願寺に同師を招き、茶話会を開いて懇談した。

(ハットハン師談)現在のベトナム戦争は、ベトナム人自身の問題として考えてみると、これは土地を提供した国際競争であって、ベトナム人自身は勝ったとか、負けたとかということには、あまり関心を示さず、いつベトナムに本当の平和が訪れるのかという事を望んでいるのである。また、われわれ仏教徒は平和について自由に発言ができない。平和を唱えると共に産かぶれといわれ、自由に発言する機会がない。そこでベトナムの現状をよく知っている日本の仏教徒のかたがたにぜひ平和の呼びかけをしてもらいたい。

わが各委員から活潑な質問があり同四時閉会した。出席者は松本徳明、細川量雄、真溪義貫、村野宣忠師らであった。

謹賀 岐阜大会当年の新春

第十五回全日本仏教徒大会

(岐阜)大会事務局

- 実行委員会 和田 耕 正
- 実行委員長 加藤 博 司
- 委員 長 浅野 真 明
- 事務局長 浅野 真 明
- 事務局所在地 岐阜市千手堂北町二

善福寺内

岐阜大会事務局

電話(五三)二七八三

十二月二日空路来日した、南ベトナムのホアハオ教(和好教)代表のグエン・ゴク・トー団長(前農相)ら一行七人は、同月七日午後一時東京築地本願寺で焼香礼拝のあと、同寺で開かれた全仏主催の懇談会に出席した。

まず全仏黒田事務総長の歓迎の辞にはじまり、近藤国際部長から、七代表と出席者全員の紹介があった。ついでトー団長から来日のあいさつ、グエン・ヴァン・ホー氏からホアハオ教についての説明があった。

ホー氏の話ではホアハオ教は、一九三九年に始まった農民中心の仏教で、釈尊をあげめ仏教、儒教、道教が一体となっ

た新興宗教で、主として南部メコンデルタ地区に主勢力をもっているらしい。信徒も二百万人を教え、教義としては四恩を重んじ、八正道などを中核としたもので教理はきわめて簡素である。

政治には直接はタッチしないが、農民層の支持は厚く、団結心は強固なものをもっているといわれ、メコンデルタを中心に、南ベトナムに隠然たる勢力をもち、貧しい農民から生れ出た仏教である。仏像のような形あるものではなく、黄色い布をたらししてこれを信仰の対象としている。

さきに南ベトナム医療奉仕団としてこの地方へ渡った所賀久雄氏(全亜協合理

全日本仏教徒大会岐阜大会

運営協議会

全日本仏教徒大会の万全を期して十二月十四日午前十一時から銀座リッツで第十五回全日本仏教徒（岐阜）大会の運営協議会が開催された。

全仏側から大会小委員と組織専門委員のメンバー、それに地元、岐阜大会の役員が出席、鈴木敏範組織委員長を座長に相談を進めた。

協議に入る前に和田耕正岐阜県仏会長はあいさつをかね、大会の計画概要をつぎのように述べた。

「十月八・九両日開催する全日本仏教徒岐阜大会は二万五千人動員の予定だが、大会前の事業として、教法の宣布のためすでに視聴覚伝道は初まっている。当県は大会当日までに檀信徒十万人帯の獲得を目ざして、具体的な大衆運動を考えている。」

協議のなかで特に重要に扱われたのは大会のテーマの問題と提出議案であるが、従来の抽象的なテーマをやめ、このたびは全仏本部のテーマをハッキリ打ち出す、地元でも具体性のあるテーマを考え、本部と地元の二本立てテーマにする。提出議案については、毎年決議されても実行できない、似たような議案が多いので、まず本部から中心議案を出して、

議案審査会で充分に審査する。議案のわくを作り、部会ごとに付議する案件を二、三議案にして、実のある審議をすることに決った。

出席者（順不同・敬称略）

（委員）真溪義貫・摩尼清之・鈴木敏範
神野真一・椎谷健・熊野竜夫・大河内隆弘・船口暉子・古川海洋・朝比奈秀行・（県仏）和田耕正・加納博司・浅野真明
戸崎文隆・藤田祥心（事務局）稲田・伊藤・熊谷・日野・阿部・柳・福井・古宇田

大会日程の予定

和田岐阜県仏会長がこの協議会に報告した大会日程の計画案はつぎのようなものである。

十月七日（日）

市スポーツセンター

仏青・仏婦大会

八日（月）

市民体育館

受付・八時半、開会・九時半、式典・

総会十時半、講演・大谷菜園アトラク

ション 午後一時から三時、各宗歓迎

会同四時

九日（火）

市民会館

受付 八時半、各部会開会 九時半、

閉会式 十一時半、観光出発 一時

岐阜県仏でラジオ放送

岐阜県仏教会は、本年十月に開かれる第十五回全日本仏教徒（岐阜）大会を盛り上げるためにいま組織づくり懸命の努力をつづけている。

その手はじめに視聴覚伝道としてラジオ岐阜から岐阜県仏教徒の時間として日曜を除く毎朝七時二十五分から五分間ラジオ放送を行うことになり、さる十二月八日の成道会を機して全仏岸信宏会長が講話をされ、和田県仏会長は各役員、各宗派代表と順次放送することになっており、仏教の近代化に力を入れ県内の仏教徒から非常に喜ばれている。

田丸道忍師 さる十一月十九日大分県中

津市福島二一七の長久寺で逝去。同師は全日本仏教会常務理事、浄土真宗本願寺派総長、宗会議長、築地本願寺輪番などを歴任し、仏教界に多大の貢献があった。

釈曉峰大宗師 大韓仏教曹溪宗宗正、釈曉峰大宗師は十月十五日七十九年の生涯を閉じた。師は平壤に生れ、韓国仏教界のため活躍をされ、一九五八年には曹溪宗総務院長となり、一九六二年韓国仏教界が大韓仏教曹溪宗として統合されるや、直ちに宗正と云う最高位に推された。

十月二十一日午前十時から孫慶山師（総務院長）が葬儀委員長となって、ソウルにある曹溪宗本山の曹溪寺で盛大な本葬が行われた。全仏ではこの悲報に接し、直ちに英文の弔電をおくった。なお宗正は、会長の位にあたるもので、韓国仏教界の師を失った悲嘆は大きいものであろう。

岐阜県仏教徒の時間



毎朝 7時25分→30分(月曜-土曜)

・放送献金運動に参加しましょう...

第15回全日本仏教徒大会

〈時〉昭和42年10月8・9日

〈於〉岐阜県民体育館



主催/第15回全日本仏教徒大会実行委員会・岐阜県仏教会

おもしろくてたのしくていつもみんなの人気もの
世界の水準を行く「カラー新聞」

ラジオ岐阜
岐阜朝日新聞

年末年始について警察庁から、次のような依頼がありました。各宗大本山等においてよろしくご高配下さい。
年末年始における雑踏事故の防止について

みだしのことにつきましては、例年格段のご配慮をいただき、幸い近年、年末年始における行事についての雑踏混乱による事故の発生をみていないことは、誠に喜ばしいところであります。

しかしながら、例年、年末年始における人出は非常に多く、さらに逐年増加している状況にあり、とくに神社、仏閣および興行場等は相当の混雑を呈しますことをご承知のとおりであります。

したが、とかく平穩に慣れますと安易な気持ちに陥り、そこから思いがけない事故をひき起こす場合が少なくないのであります。

当庁といたしましては、各都道府県警察に対して、年末年始における雑踏事故の防止について適切な措置をとるよう通達いたしました。貴会(庁)におかれましても次の事項について格別のご配慮をいただくとともに、傘下各団体に対しましてしかるべき措置を講じられるようご連絡をいただきたくお願いいたします。

年末年始の事故防止について注意

記

一、警備員、整理員の配置については、催物の規模に応じた十分な人員を確保されることにも、事故防止のための適切な要点配置を考慮されたいこと。

二、催物の行なわれる場所、施設については、危険防止の観点から事前に検討され、危険と思われる場所または物件については、整備補修、除去等の措置を講ずるとともに、それらの場所の収容能力に応じて、逐次、参加者を入場させるような整理方法についても配慮していただきたいこと。

三、入場、退場の際は、先を争って押し合う等の無秩序な行動をとらせないよう

う、適切な整理誘導を行なうとともに、あらかじめ行事内容についても検討され、混乱等をひき起こすおそれのある催物はつとめて避けるように配慮されたいこと。

四、雑踏が予想される場合には、事前に警察に対し、積極的に連絡していただき、警察との協力につとめられたいこと。

法輪について

釈尊のお説きになられた教え(経典)を形に表現すると、法輪になります。車の輪の廻るように教えが広まってゆくその活動的な形であります。釈尊ご在世當時に

は仏像は有りませんから、釈尊に帰依する多くの人びとが、法輪をもって釈尊のもののお姿に代えて礼拝し、ご入寂後もずっとその信仰が続いて、インドをはじめ世界各国の全ての仏教徒がひとしく仏陀の尊さを現わすのに、この法輪をもってします。法輪こそ、仏教最高のシンボルであります。

新しい年をお祝いとともに精進しましせう

京都府仏教会

会長 三崎 良泉
副会長 信楽 香雲
副会長 荻原 大瑩
理事長 奥 博良

京都市東山区大和
大路四条下ル四

静岡県仏教会

会長 松村 寿顕
事務局長 浅井 仏宗
会計 野上 達雄

静岡市沓谷 蓮永寺内

全日本仏教

婦人連盟

会長 大谷 智子
理事長 山本 杉
本部
東京・中央・築地全日仏
事務局
世田谷区楼上水四一九一
七
電話(三〇二)一五九八

財団法人全日本

仏教尼僧法団

理事長 北川 教全

東京都足立区興
野町一二五八

新 産 の 揚 顕 正 法 智 巷

東京都港区芝二丁目五番三号

曹洞宗宗務庁

管 長	高階 瑞仙
宗務総長	中村 貞元
参 議	福山 忍裳
参 議	乙川 瑾映
財政部長	村上 道隆
総務部長	山田 義道
教化部長	興田 文丈
教学部長	大川 玄道
社会部長	若山 運法
秘書室長	芳賀 達宗
企画室長	上野 徳隆

浄土真宗本願寺派

総 長	豊原 大潤
組 織 局 長	神田 寛雄
内 務 局 長	高辻 恵雄
教 学 局 長	工藤 義修
法 式 局 長	篁 良雄
總 務 局 長	寺田 義淳
連 絡 中 央 長	大内 察爾

真宗大谷派

宗務総長	訓 覇 信 雄
参 務	大 谷 演 慧
参 務	星 谷 慶 縁
参 務	蓬 次 祖 運
参 務	奥 村 蒙
参 務	古 賀 制 二
総務部長	官 部 幸 磨

浄土宗務庁

浄土門主	岸 信 宏
宗務総長	小林 大 巖
教学局長	井 川 定 慶
総務局長	新 谷 寛 応
宗務支所長	知 足 円 明
教化部長	野 中 純 道
学事部長	藤 田 説 量
庶務部長	田 村 信 弘
財務部長	

京都市東山区林下町四〇〇
電話〇七五(五六)〇〇三五

日蓮宗宗務院

管 長	藤 井 日 静
宗務総長	片 山 日 幹
総務部長	佐 久 間 智 周
庶務部長	下 宮 高 俊
教務部長	松 村 寿 顕
伝道部長	伊 藤 日 瑞
兼護法連動本部事務局長	山 本 玄 英
財務部長	山 口 智 光
参 与	浦 野 貴 道
参 与	池 上 要 輝
輪番本部事務局長	鬼 頭 潮 龍
總務課長	片 山 宣 英
秘書課長	梅 木 良 明
寺院課長	小 山 海 信
僧籍課長	尾 谷 卓 一
教学課長	豊 田 弁 恵
社会課長	
新聞課長	
經理課長	
兼出納長	
護法運動本部事務局長	洪 谷 文 景

東京都大田区池上本町三一

天台宗務庁

座 主	即 真 周 湛
宗務総長	杉 谷 義 周
教学部長	森 定 慈 紹
庶務部長	柴 田 昌 源
財務部長	宮 嶋 賢 純
録 事	小 林 昭 延

真言宗智山派 総本山智積院

宗務総長	上 野 頼 栄
事務局長	田 中 隆 恵
庶務部長	執 事 別 所 弘 因
教学部長	執 事 別 所 弘 因
財務部長	執 事 小 沢 照 禧

京都市東山区東山七条
総本山 智 積 院
電話(五六)一五九四
宗務庁宗務出張所
所長・執事 小 沢 照 禧
東京都港区芝愛宕町一の八
電話(四三一)一〇八一

大津市坂本本町一七七一の一
電話〇七七五四(8)二二一八

新義の顕揚の法正賀

真言宗豊山派宗務所

管長 岡慶信

宗務総長 小野塚 潤澄
庶務部長 築山 定誉
財務部長 野口 有興
教学部長 永見 聖宏

東京都文京区

大塚五丁目四〇一八

九四一一 〇六三九
一〇七五

新義真言宗宗務所

宗務総長 木村 智広

東京都台東区
谷中五丁目八二一八
観音寺

法華宗(本門流)宗務院

管長 松井日宏

(宗務総長) 福島 泰信
(兼庶務部長)
教学部長 松本 日宗
財務部長 寺内 泰徹
社会部長 青柳 日勝

東京都豊島区巢鴨六丁目二四

電話 九八二一 四七五五
三五九八

融通念仏宗宗務所

大阪市東住吉区平野上町十
電話 七九一〇〇二六

教王護国寺

法主 木村 澄覚
事務長 田中 清澄
職員 一同

京都市南区九条町一番地
電話六九一三三二五六番

和宗総本山四天王寺

管長 出口 常順
執事長 塚原 徳応

大阪市天王寺区元町

東叡山寛永寺

住職 大照 晃道
執事長 古字田 亮宣

東京都台東区上野桜
木一丁目十四番十号

孝道教団本部 孝道山本仏殿

統理 岡野 正道
副統理 岡野 貴美子

横浜市神奈川区孝道山

謹みて新年を寿ぎ
みなさまの
御多幸をお祈りします



世界仏教協会 女性仏教社

編集主任 奈良 政子
東京都港区芝公園五号地十

会長 野 依 秀 市

財団法人 日本仏教鑽仰会

理事長 中山 理々
東京都北区赤羽台三一
二四一二
真宗大谷派 法善寺内
事務所 千代田区神田
二一三一五
電話二五六一四九一一

ヤング・イースト社

会長 長井 真琴
専務理事 村野 宣忠
東京都大田区池上本町三一
電話七五一七七八一三番
振替東京一四〇八八四番

栗本 俊道

西信寺住職
大泉靈園主管
東京都文京区大塚五
丁目二番十号

神田 寺

眞理運動本部
主管 友松 円諦
副主管 友松 諦道
東京都千代田区
外神田三十四一十

高野山東京別院

山本 芳 遵
東京都港区芝二本榎二一十五
電話 四四一三三八

華山 恵光

妙心寺派宗務総長
京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所

近代仏教研究会

壬生 照 順
東京都台東区元浅
草一十七一七一二

半田 孝海

長野県仏教会会長
長野県小県郡塩田町別所

西村 輝成

曹洞宗信松院住職
全仏国際専門委員
八王子市台町一七一

祐天寺住職

巖谷 勝雄

東京都目黒区中目黒三
一〇六七
電話七二一〇八一九

熱海 誓欣院
観音俱樂部

長田 順海

熱海市上宿七一

民社党政策審議会副会長
民社党東京四区連合会委員

和田 耕作

杉並区堀の内の一六五
三一三一七七

「世界仏教」主幹
「女性仏教」

野 依 秀 市

東京都港区芝公園五号地十

全日本仏教会

参与 前田 義雄

高山市昭和町一〇三

福岡県仏教会

會長 二十二 鉄 鎧
総務局長 甘 蕉 良 淳

賀



正

ことしも倍旧のお引立をお願いします

東海の〈ミリオン積立〉で
100万円づくりへ 第一歩
あけましておめでとう ございます

東海銀行



感謝の礼拝
平和な家庭

株式会社

小堀仏具店

大谷ご本廟、室内改装
ご荘厳設計施工の栄に
浴しました

本店 京都市烏丸通東本願寺前
電話 37-2195(代表)・37-1256
東京店 台東区西浅草1丁目6番5号
電話 (843)6961



株式会社 **安藤法衣佛具店**

京都市東山区古門前通東山線西入

法衣部 電話京都560690
仏具部 電話京都562402

夜間専用電話
京都565078

真言宗天台宗専門仏具店

各本山御用達

京仏具 **田中伊雅仏具店**

京都市下京区万寿寺若宮角
☎075 2584. 5760. 4630

海外旅行のご用命は親切ていねいな当社へ



近畿日本ツアーズ



東京都千代田区神田小川町2丁目2番地 (金沢ビル)

(294) 6 7 2 1 ~ 3

航空営業所 札幌・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡



推薦 文部大臣

全国寺院名鑑

編集 全日本仏教会

発行 寺院名鑑刊行会

仏教界の印刷は特に勉強させて頂きます
寺報、新聞、雑誌等の印刷は迅速・安価に
できる電子写真印刷、P.T.O.(タイプオフ
セット)印刷を御利用下さい。
御一報下されば係りが参上いたします。

有限会社 **ルンビニ社**

東京都千代田区内神田二丁目七十三
電話 (二五一) 七五八七

あけまして
おめでとう
ございます